

しろな（非結球はくさい）

農薬取締法上、「しろな」の作物名は「非結球はくさい」である。

「非結球はくさい」には、「非結球はくさい」「非結球あぶらな科葉菜類」「葉菜類」「野菜類」に適用のある農薬を使用すること。（非結球あぶらな科葉菜類の項 参照）

| 作型・病害虫名 | | 月 | | | | | | | | | | | |
|-----------|---|----|----|---|---|---|---|---|---|---|----|----|----|
| | | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 |
| 普 | 通 | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● |
| | | は種 | 収穫 | | | | | | | | | | |
| 萎黄病 | | | | | | | | | | | | | |
| 根こぶ病 | | | | | | | | | | | | | |
| ハイマダラノメイガ | | | | | | | | | | | | | |
| ヨトウムシ | | | | | | | | | | | | | |
| アオムシ | | | | | | | | | | | | | |
| ハモグリバエ | | | | | | | | | | | | | |

—— 発病・加害時期
 == 発病・加害最盛期

萎黄病

留意事項

- 1 病原菌は根に侵入し、道管に沿って下から移動するため、葉の黄化も下から進行する。
- 2 株元を切断すると、維管束が変色していることがある。
- 3 根傷みによって発生が助長される。

防除方法

- 1 あぶらな科野菜の連作を避ける。
- 2 排水を良好にする。
- 3 下記の薬剤で土壌消毒を行う。（XⅢ土壌消毒 参照）
 - ・ [バスアミド微粒剤](#)、[ガスタード微粒剤](#) 劇 <—>
 - 【20～30kg/10a 所定量を均一に散布して土壌と混和
は種又は定植14日前/1回】
- 4 発病株は早めに除去し、ほ場外に持ち出し適切に処分する。

根こぶ病

留意事項

- 1 降雨が続く秋期に発生しやすい。
- 2 気温が高く、日長時間が長い時に発生しやすい。

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

- 3 酸性土壌で排水不良のほ場に発生が多い。

防除方法

- 1 あぶらな科野菜の連作を避ける。
- 2 排水を良好にする。
- 3 石灰質資材を施用し、土壌酸度を矯正する。
- 4 下記の薬剤で土壌消毒を行う。（XⅢ土壌消毒 参照）
 - ・ [バスアミド微粒剤](#)、[ガスタード微粒剤](#) 劇 <ー>
 【20～30kg/10a 所定量を均一に散布して土壌と混和
 は種または定植14日前/1回】
- 5 発病株は早めに除去し、ほ場外に持ち出し適切に処分する。

コナガ

留意事項

- 1 葉裏に網のようなまゆをつくってサナギになる。
- 2 春～初夏、秋の発生が多い。
- 3 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

防除方法

- 1 べたがけ資材の利用により被害軽減に努める。
- 2 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [プレバソフロアブル5](#) <28> 【2000倍 前日/2回】
 - ・ [コテツフロアブル](#) 劇 <13> 【2000倍 3日/2回】
 - ・ [スピノエース顆粒水和剤](#) <5> 【5000倍 3日/2回】
 - ・ [BT剤](#) <11A> （Ⅸ野菜類の病害虫防除 3野菜類 参照）

ハイマダラノメイガ（ダイコンシンクイ）

留意事項

- 1 夏期が高温少雨で、残暑のきびしい年に多発しやすい。

防除方法

- 1 べたがけ資材の利用により被害軽減に努める。
- 2 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [スピノエース顆粒水和剤](#) <5> 【5000倍 3日/2回】

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

ヨトウムシ類

留意事項

- 1 夏～秋期に高温乾燥する年に大発生する傾向がある。
- 2 若齢幼虫の防除に重点を置く。
- 3 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

防除方法

- 1 べたがけ資材の利用により被害軽減に努める。
- 2 育苗期～定植当日に下記の薬剤を施用する。
 - ・ [プレバソンフロアブル5](#) <28>
【ハスモンヨトウ 100倍 かん注（セル成型育苗トレイ1箱またはペーパーポット1冊（約30×60cm、使用土壌約1.5～4L）当たり0.5L）育苗期後半～定植当日／1回】
- 3 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [スピノエース顆粒水和剤](#) <5> 【5000倍 3日／2回】
 - ・ [BT剤](#) <11A>（Ⅸ野菜類の病害虫防除 3野菜類 参照）

アオムシ

留意事項

- 1 幼虫による被害は春と秋に多い。
- 2 若齢幼虫の防除に重点を置く。

防除方法

- 1 べたがけ資材の利用により被害軽減に努める。
- 2 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [アディオン乳剤](#) <3A> 【2000～4000倍 前日／3回】
 - ・ [コテツフロアブル 劇](#) <13> 【2000倍 3日／2回】
 - ・ [スピノエース顆粒水和剤](#) <5> 【5000倍 3日／2回】
 - ・ [BT剤](#) <11A>（Ⅸ野菜類の病害虫防除 3野菜類 参照）

ハモグリバエ類

防除方法

- 1 べたがけ資材の利用により被害軽減に努める。
- 2 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [スピノエース顆粒水和剤](#) <5> 【5000倍 3日／2回】

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。